

# 第三回 荒川区区政改革懇談会

## グループ討議会議録：山吹

### 【日時】

9月7日（水）13:30～16:30

### 【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ2：荒川の良い点・悪い点を話し合う

【参加者】（五十順・敬称略）

飯田正二

市川正夫

岡田正規

千葉智祥

津田耕嗣

### 【場所】

荒川区役所 305 会議室

ステップ3：こうなって欲しいまちの姿と課題を話し合おう

ステップ4：今日の話し合いの結果の確認

前田淳一

吉川起夫

（欠席4名）

### ステップ1：はじめに

#### 【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回の議論の内容確認、議事録の確認とともに、現行の基本構想等の総合評価が難しい旨の説明を行った。区からは、「あらかわの未来を拓く新生プラン」の提示とともに、新しい基本構想等の作成にあわせて行政評価の制度を取り入れたいとの説明があった。

### ステップ2：荒川の良い点・悪い点を話し合う

委員から良い点・悪い点にこだわらずに、もっと広い視野で話し合いたいとの要望が出されたので、自由に話しあうことになった。

### ステップ3：こうなって欲しいまちの姿と課題を話し合おう

#### 【行政】

- ・ ボランティア活動をしていると、行政の壁を感じる時がある。縦割り意識を持たずにもっと融通を利かせてほしい。
- ・ 区の遊休施設を再生して、有効利用できるようにしてほしい。
- ・ 住民の諸問題や意見に対して、行政へストレートに届くような制度があればいい。
- ・ 区側の官の体質を変えてほしい。民間の立場で勉強する等の工夫が足りない。
- ・ 環境等の問題が起こってもどこに相談すればよいか迷うことがある。相談のシステムなどをわかり

やすくしてほしい。

- ・ 役所まかせだけではなく、区民からの働きかけも必要である。
- ・ 遊休施設を把握して、眠っている資産を活用した方が良い。

#### 【産業】

- ・ 荒川区の経済をささえられるのは産業(特に製造業)。もっと活性化することが必要である。
- ・ 後継者不足は深刻な問題ではあるが、現実の否定的な面だけであきらめずに、伝統を絶やさないで欲しい。区を含めたバックアップがほしい。

#### 【文化】

- ・ 荒川区の「匠の心、伝統」は世界のコアになる、誇れることである。例えば、「匠会館」などの施設を作れば、荒川ブランドを浸透させることができ、職人の心を、教育・行政面でも生かせるような広がりができるのではないか。

#### 【まちづくり】

- ・ かつての下町の風景が新築マンション建設に伴い、どんどん変化している。かつて防災通路だった道がマンションの建築で通れなくなる等、まちづくりの問題は切実である。
- ・ 再開発は必要だが、町並みの統一性が感じられない。
- ・ マンション建築等の再開発は、何らかのチェック機能が必要である。

#### 【教育】

- ・ 現在の青少年の犯罪は大人が相当本腰を入れないと、深刻なものになる。どんな小さな犯罪でも放置しておく、大きな犯罪に発展する。
- ・ 青少年の犯罪の低年齢化、凶悪化は、指導する側にも問題がある。理解させるだけでなく、行動に結びつくようにするための指導力が問われる。教員、親、行政側の教育が必要である。
- ・ 荒川区はいち早く英語の早期教育が行われているが、何が子供たちのためになるかを考え、基本的な教育にも力をいれていくべきだ。

#### 【コミュニティ】

- ・ 再開発等で新しい住民がどんどん移り住んでいるが、元々の住民と価値観が違う面がある。お互いのことを出し合って、洗練された関係ができればいい。
- ・ マンションの自治会と昔からの町会の関係がうまくいかない場合があり、町会側は新しい住民を迎える度量が必要である。又、新しい住民は町会にアプローチしない面がある。
- ・ 住民間の交流には、町会とマンションの管理組合との新しい連携が必要である。
- ・ 新しい住民が入ってきて、変わり行く町会活動には、新しいシステムやそのための行政の手助けが必要である。

### ステップ4：その他

#### 【その他】

11月に中間報告会を開催予定であることを確認。

#### 【次回について】

今回話し合った6つのテーマ(産業・行政・街づくり・教育・文化・コミュニティ)を基に、実現するために何が必要か、更に議論することを確認。

次回日程は、10月5日(水) 13:30～

以上